



## チェルノブイリ原発事故から 34 年、福島原発事故から 9 年を経て

日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ  
事務局長 服部 賢治

新型コロナウイルス感染症に関する影響が拡大しています。お亡くなりになられた方々へ謹んでお悔やみ申し上げます。そして、医療機関などをはじめ、懸命にご対応されているみなさまへ心からの感謝を申し上げます。

大切ないのちを失い、耐えがたい痛苦を覚えながらも、未来を信じ、他者を愛し、新しい脅威に対しての向き合い方をご一緒に探していかなければならないと心に留めています。

たらいまわしされている事例が続出している PCR 検査をはじめ、抗体検査や、軽症者（自宅療養者）や死亡者数など、福島原発事故による放射能汚染や被ばく・健康調査と同様、基本的な調査がなされていません（もしくは不十分な状況が続いています）。事態を正確に把握する、というごくごく基礎的なことがなされていない、ことは、9年前の事故直後から現在に至るまで、被災・被ばく住民保護のための調査活動がなされなかった・乏しかったことと酷似しています。

社会的にどのような対策や対応が必要となるのかを検討する大前提である、"（より）正確で信頼できる情報＝実態"を丁寧に拾い集める作業がおろそかにされています。早急に構想・構築されなければならない、と認識しています。よりよいゴール（出口）にたどり着くために、出発点や途中経路（現状）をしっかりと把握・情報共有できなければ、往々にしてよりおおきな犠牲につながる

ことと危惧します。

平たく、かつ、粗い表現では、深刻な放射能汚染（福島原発事故）後の不十分な住民保護対策が教訓化されていない、繰り返されている、ことに尽きるものと感じています。

放射能に関してはまるで問題が何もなかったかのようにされていますが、これからも私たち「いずみ」は歩みを進めて参ります。みなさまとともに、核（原発）事故を覚え、被ばく・被害者への支援確立を、核惨禍が繰り返されないことを願い取り組んで参ります。

感染症について、そして、核（原発）事故による環境や健康影響についても、限られた方だけで解決できない、非常に大きなハードルです。どうか広く手を取り合い、対話を基盤としてより多くの方々と支えあいゴールを目指していけますようお願いしています。どうかこれからもご理解・ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、みなさまのご健康が守られますよう心よりお祈り申し上げます。

あらゆるいのちに平和がもたらされるようお願いをこめて。

2020年4月26日



希望の牧場・ふくしま 吉澤正巳さん (2014年11月8日 仙台市内)